

平成29年度幼稚園自己評価－評価・課題・改善方向

第1 はじめに

平成29年度から大谷幼稚園は幼保連携型認定こども園になったことに伴い、職員の数が増え、それぞれの経験年数や考え方も違う中で、柱となる大谷保育の共通理解を深めながら、意見を言いやすい職場環境の工夫に努めたく学校評価のテーマを「チーム保育」(教職員の連携)とした。職員間では、時間差出勤による連携の工夫や他園の経験がある職員の保育の違いなどからの課題があり、リーダー会議や話し合いをしているところです。今年度における園運営改善の取り組みは、学校評価の一環として実施した保護者アンケートの結果も参考としながら、2号認定こども保護者のPTA参加問題や保育教諭の業務軽減に向けた検討を進め、一部実施に移した。具体的には、2号認定の保護者の参加の仕方を来年度は、参加の日数が少ない係にするなどの変更を考えている。また、保育教諭の仕事量や行事を除いた保育の充実を図るための行事の見直しの検討を重ねてきた。今年度は、全ての同伴登園の行事を取り上げ保護者にアンケートをとり、その結果を踏まえて、来年度の同伴登園の行事に活かせる取り組みを行いたいと考えている。また、保育・教育上の課題を中心に全体として23の項目について評価項目を策定し、園として評価を実施した。

平成29年度
認定こども園札幌大谷幼稚園
評 価 書

平成30年3月

第1 はじめに

今年度における園評価は、保育・教育上の課題を中心に、全体として、23の項目について評価項目を策定し、園としての評価を実施した。

この評価に当たっては、①職員自己評価結果、②保護者アンケート調査結果、③園長、副園長が直接見聞し又は間接的得た情報を評価資料としつつ、公教育経験者、幼児教育研究者及び園保護者代表で構成された「園関係者評価委員会」の意見をお聴きした上で、園長の責任で取りまとめたものである。

また、各項目の評価は、「A」（園が予め想定した基準を十分にクリアしている）、「B」（改善すべき課題が少なからずあるが、園が予め想定した基準はミニマムにクリアしている）、「C」（改善すべき課題が多く、園が予め想定した基準をクリアしているとはいえない）の3段階評価とした。

第2 項目毎の評価

I 保育の計画性

1 教育課程の編成

－01 園の教育課程を理解し、それに基づいて計画を立てる。

評価A

“大変よくできた”が0.5割。“よくできた”が7.5割。“出来なかった”が0.5割。

2 環境の構成

－01 遊びに必要な遊具や用具、素材など質・数量に配慮して用意する。

評価A

“よくできた”が2.5割。“できた”が6.5割。“出来なかった”が1割。

－02 幼児の発達や生活を見通した環境構成をする。

評価A

“大変よくできた”が2割。“よくできた”が6.5割。“出来なかった”が1割。

3 評価・反省

－01 反省等の提出期限を守れている。

評価B

“大変よくできた”が4割。“できた”が2割。“出来なかった”が3割。

－02 自分の保育を評価・反省と記録をすることで次の保育に生かす。

評価A

“大変よくできた”が2.5割。“できた”が6割。“出来なかった”が1割。

II 保育の在り方、幼児への対応

1 健康と安全への配慮

- －1 園内に危険な個所はないか、危険な遊びはしていないか常に配慮し、危険が予測される場合は安全な遊び方について幼児と一緒に考える。

評価A

“大変よくできた”が3割。“できた”が5割。“出来なかった”が1.5割。

2 幼児理解

- －1 一人ひとりの幼児をよく観察すると同時に周囲にも目を配る。

評価A

“大変よくできた”が1.5割。“できた”が8.5割。

- －2 乳幼児の姿を多面的に捉えるように心がける。

評価A

“大変よくできた”が1.5割。“できた”8割。“できなかった”が0.5割。

3 指導とかかわり

- －1 乳幼児が理解しやすいような、正しい言葉をつかう。

評価A

“大変よくできた”が3割。“できた”5.5割。“できなかった”が1.5割。

- －2 乳幼児の年齢に応じた援助の仕方を工夫する。

評価A

“大変よくできた”が2.5割。“できた”が6.5割。“できなかった”が1割。

- －3 乳幼児同士のトラブルに対し、適切な対応をするように心がける。

評価A

“大変よくできた”が2.5割。“できた”が7割。

4 保育者同士の協力・連携

- －1 幼児の事について保育者同士で話し合い、共通理解をするように心がける。

評価A

“大変よくできた”が5割。“できた”が4.5割。“できなかった”が0.5割。

Ⅲ保育者としての資質と能力

1 専門家としての能力・姿勢・義務

- －1 締切りのある仕事や提出物は締切り日をきちんと守る。

評価A

“大変よくできた”が5割。“できた”が3割。“できなかった”が2割。

- －2 保育時間外でも保育者としての誇りと自覚をもった言動を心がける。

評価A

“大変よくできた”が3割。“できた”が6.5割。“できなかった”が0.5割。

- －3 職務上知り得たプライバシーに関する情報などの秘密を守る。

評価A

“大変よくできた”が8割。“できた”が2割。

2 組織の一員としての在り方

- －1 教職員全員で一つのチームであることを自覚する。

評価A

“大変よくできた”が4割。“できた”が4.5割。“できなかった”が1割。

3 保育の楽しみ方

- －1 幼児と一緒に生活を創り出すことを楽しいと感じている。

評価A

“大変よくできた”が7割。“できた”が3割。

Ⅳ 保護者への対応

1 情報の発信と受信

- －1 保護者からの相談や要望に心を開いて、よく話を聞くように心がける。

評価A

“大変よくでき”が4割。“できた”が6割。

2 守秘義務の遵守

- －1 個々の幼児や保護者、家族の情報は口外しない。

評価A

“大変よくでき”が9割。“できた”が1割。

3 対応上のマナー・心がまえ

- －1 日常生活において、その場に合った正しい言葉を使うようにする。

評価A

“大変よくでき”が3割。“できた”が6.5割。“できなかった”が0.5割。

V 地域や自然や社会とのかかわり

1 小学校との連携

- －1 小学校の教育内容について理解するように努める。

評価B

“大変よくできた”が0.9割。“できた”が3.6割。“できなかった”は5割。

VI 研修と研究

1 研修・研究への意欲・態度

- －1 研修会や研究会には自己課題をもって進んで参加する。

評価B

“大変よくできた”が1割。“できた”が5割。“できなかった”は2.5割。

2 今日の課題に関する研修・研究

- －1 アレルギー、自立の遅れなど、最近多く見られる問題について理解する。

評価B

“大変よくできた”が1割。“できた”が5割。“できなかった”は2.5割。

第3 総合的な評価と今後の課題

I 保育の計画性の「教育課程の編成」では“園の教育課程を理解し、それに基づいた

保育の計画”、「遊びの構成」では、“遊びに必要な遊具や用具、素材など質・数量に配慮した用意・幼児の発達や生活を見通した環境構成・保育の反省・評価・記録をして次に生かす”を評価Aとした。

Ⅱ保育の在り方、幼児への対応の「健康と安全への配慮」では、“園内の危険な個所や危険な遊びへの配慮と安全な遊びを幼児と一緒に考える”、「幼児理解」では“乳幼児一人ひとりの観察と目配り・乳幼児の姿を多面的に捉える”、「指導と関わり」では、“正しい言葉を使う・年齢に応じた援助の工夫・乳幼児のトラブルへの適切な対応”、「保育者同士の協力・連携」では、“幼児についての保育者の共通理解”を評価Aとした。

Ⅲ保育者としての資質と能力の「専門家としての能力・姿勢・義務」では、締め切りのある仕事と提出物の期限を守る・保育時間外での保育者の誇り・自覚の言動・プライバシーに関する情報の秘密を守る”、「組織の一員としての在り方」では、“一つのチームとしての自覚”、「保育の楽しみ方」では“一緒に生活を創り出す楽しみ”を評価Aとした。

Ⅳ保護者への対応の「情報と発信」では、“保護者からの相談・要望に心を開いて聞く姿勢”、「守秘義務の遵守」では“個々の幼児や保護者、家族の情報は口外しない”、「対応上のマナー・心がまえ」では、“その場にあった正しい言葉を使う”を評価Aとした。全体としての項目は、期待した水準にある評価Aが多く、特に問題はないと評価している。

Ⅴ地域の自然や社会の関わりでは「小学校との連携」、Ⅵ研修と研究の「研修・研究への意欲・態度」では“研修会や研究会には自己課題を持ち進んで参加する”「今日的課題に関する研修・研究」を評価Bとした。

小学校の教育内容の理解、研修会や研究会への自己課題を持つての自主参加、アレルギーや自立の遅れなど多く見られる問題等にはまだまだ不十分であり、勉強を続けていきたいと前向きな姿勢で自分を受け止めている。今後の姿勢に期待をしたいと考える。

以上のことを踏まえ、今後も「自分の姿勢を振り返り、保育の楽しみや喜びの過程と一緒に分かち合う関係」を大切にしながら、認定こども園としての新たな歩みをはじめた大谷保育の一層の深化・充実に努め、地域や保護者との信頼関係をより確かなものとしていきたい。

最後に、この評価書の作成にご協力いただいた園関係者評価委員の皆さま、及び園保護者の皆さまに厚くお礼申し上げます。